

「理科授業カアップ研修会」

今年度も2名の「理科コアティーチャー」の先生方（江川小学校 栗木健先生、檜枝岐中学校 吉村憲治先生）に協力いただき、研修会を行っています。今年度2回目は江川小学校を会場に、楽しく実験のアイデアを学ぶ「おもしろ実験アイデア集」、児童生徒の気持ちになって実験に取り組む「模擬授業と演習」、義務教育課指導主事の武藤利徳先生から新学習指導要領について学ぶ「理科授業づくり講演会」の3本立てで行われました。

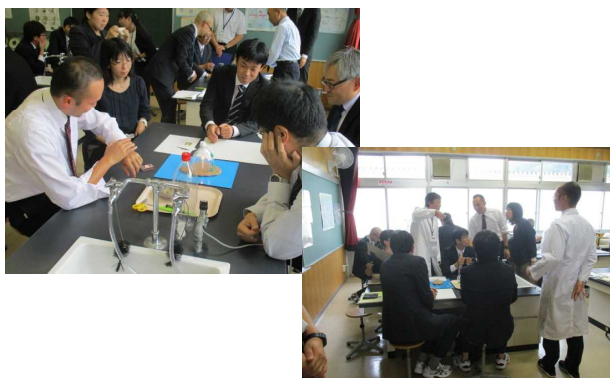


「おもしろ実験アイデア集」では、手軽に作れる「ヘリコプターごま」、「ブーメラン」、ペットボトルを使用して簡単に作れる「雲発生装置」、「ローソクについた火を消す実験」などが紹介され、参加者が班ごとに楽しく実験を行いました。最後に宇宙から地球の様子を見ることができると「マジックアース」についての紹介がありました。

「模擬授業と演習」では、ある水溶液から「ミョウバン」だけを取り出す課題が与えられました。難しい課題でしたが、参加された先生方は班ごとに協力しながら真剣に課題解決に取り組み、授業を受ける側の気持ちを実感しました。

参加された先生方からは、「どの実験も子どもの知的好奇心を喚起し、思考力を働かせる素晴らしいものだった。」「ミョウバンを取り出す実験は、子どもたちの活用力を高めるために有効な実験だと思った。」「講演会を聞いて、子どもが実際に比較したり、関連づけたりする教材や資料の準備が重要だと感じた。」等の感想が聞かれました。

今回の研修で学んだことを、各学校の理科の授業でぜひ生かしていただき、域内の多くの児童生徒が「理科好き」になることを期待します。



西部地区交流学習の取組

西部地区の小・中学校では、特別支援学級に在籍する児童生徒とその保護者を対象に、年に3回、交流学習が行われています。平成12年、明和小学校と南郷小学校の2校の特別支援学級の交流学習から始まり、その後少しずつ輪を広げ、現在に至ります。今年で19年目という長い歴史と、保護者も交えた交流学習という点で、県内他に類を見ない取組です。

今年度2回目の交流学習は、「りんご狩りに行く」というテーマで、南会津町長野でりんご狩りを体験し、御蔵入交流館の調理室でアップルパイを作るという内容でした。

アップルパイづくりでは、小中が入り交じった班編成で、小学生は中学生を手本にし、中学生は小学生の活動を優しく見守りながら、協力して調理学習が進められていました。とても微笑ましい光景でした。年齢の違う子どもがお互いを意識し合うことで、そこに「学び合い」が生まれていました。自立活動の観点の「人間関係の形成」、「コミュニケーション」の力の伸長につながる貴重な経験になっていました。



子ども達が交流学習を行っている間、保護者を対象に講演会や懇談会を行っています。今回は「南会津町手をつなぐ親の会」会長の渡部里美様より先輩保護者の体験談としてお話がありました。保護者の方々にとって大変貴重な情報交換の場となっていました。この取組を参考に、南会津域内の特別支援教育のさらなる充実を図っていきたいと考えます。